

「ボランティアの訪問に感謝」

現在、仮設住宅に定期的及び随時にボランティアの訪問を受けています。

ボランティア活動は、自発(自主)性、無償(無給)性、利他(社会、公益、公共)性に基づく活動とされているが、volunteerの語の原義は志願兵であり、歴史的には騎士団や十字軍などの宗教的意味を持つ団体にまで遡ることができ語源はラテン語のvolō志願者であるとされ、日本のボランティア活動の始まりとしては、1989年のロマ・プリータ地震がある、このときNGOの支援を得て大学生を中心に38人のボランティアが現地で活躍している、現地では遠い日本からボランティアが来たと感謝され現地の新聞が取り上げ「救援はお金しか出さない」と言われた日本がお金ではなく人的活動をしたと評価されたと言われております。ボランティアの歴史がこのように浅いのに驚きである。

ボランティアというが大変な行動力が必要とし時間と労力の戦いでもあると思います。

ボランティアを行動する側に立つか受ける側に立つかその状況により異なりますが、現在都路町民は受ける側の状況にあります。

個人的には20数年ボランティアに近いことをしています。(このことについては、後日掲載したいと思います。)

春山小学校の共同生活から始められた、栃木県のIさんは毎月2回定期的にマッサージをするため来所、顔なじみとなり雑談をできる仲となり過日、女性の一人が「もう開き直っているから」と言い、自分たちの厳しい状況を笑いの種にできる、心のゆとりがついてきていると報告がありました。

東京の築地本願寺さんは炊き出しの訪問や本堂への1泊2日のツアー(昨年は36名参加)を実施していただき参加者は大変喜んで折、第2回目のツアーを計画されております。

飲食店を経営しているコジコジさんは炊き出しや子供の遊び道具を持参し、子供たちとのゲーム等でストレス発散に大変協力をいただいております、感謝。感謝です。今後、都路中学校でクッキーづくりの講習会を開催する予定で進められております。築地本願寺来恩寺さんは仮設住宅集会所へ花の植栽を四季折々に来所し入居者の心を和ましていただいております。

大阪からは唐墨さん。趙博さんが来所し歌のライブとタコ焼きづくりに皆さんを楽しませてくれ、かつ千葉県から野菜を持参し入居者の方に配布もしていただいております。MAX音楽隊は月1回音楽を聞かせていただきを皆さんと一緒に歌い癒してくれます。

東京在住のTさんは全盲であるが電車を乗り継ぎ、親身に汗だくとなりマッサージをして皆さんの肩・腰をほぐしてくれ大変喜ばれております。

町内に住んでいますSさんは週3回訪問、傾聴等をしていただき顔なじみもでき皆さんに親しまれております。そんな中、無理な仕事も頼まれ難くこなしていただいております。JA女性部のたんぼぼ会は折り紙作りや健康体操をしていただき、皆さんを癒してくれています。

田村自動車学校、ヨークベニマルさんには炊き出し等に奉仕をいただいております。最近、大越牧野のひまわり会からお誘いを受けひまわりの植栽をし、焼き肉等のもてなしを受け、今後ひまわりの刈取りやエルミネーションの飾りつけ等継続してお付き合いをさせていただくことになっております。その他、都路出身の大学生W君、スイス生まれのAさんなど多くのボランティアを受けております。

一方受けるだけではなく、福祉の森入居者は福祉の森沿道の草刈り等、船引運動場の入居者は船引駅北回のロータリーに花の植栽、平和通り沿道の草刈りを実施。恩返し of 自主的活動をするようになりました。

このボランティアを受けたことの感謝を都路町民は一生忘れること無いよう孫子の代に語り継ぐ必要があると思います。ボランティアの皆さんありがとう。

私事ではありますが、民報サロンに投稿することで、音信不通でありました小学1・2生の担任で恩師のM先生から便りをいただき感謝、50年ぶりに訪問。再会することを楽しみにしております。

田村市都路町 生活支援相談員 今泉清司

---

## 「応急仮設住宅の現状」

避難生活を余儀なくされてから1年5カ月となり、応急仮設住宅船引運動場。福祉の森・第2運動場。御前池4ヶ所において、それぞれサロン(茶和会)を実施できることになり定期的サロン・仮設同士の交流サロン、移動サロン・ソフトボール大会等を開催し参加者は楽しく過ごすようになりました。

6月、船引運動場の皆さんと移動サロン(26名参加)で山形県へさくらんぼ狩りに出かけ、参加者は久しぶりに県外に出かけたことで生き生きとした様子でした。車中でもゲーム・唱歌を歌ったり楽しく過ごして参りました。車中みんなで歌った「ふるさと」(ウサギ追いしかの山 こぶな釣りしかの川 夢は今もめぐりて忘れがたきふるさと)

皆で目を潤ませ、離散避難を余儀なくしている家族、稲を植えたであろう田んぼ、野菜つくりをした畑、魚釣りをした川、それぞれ胸中にあるものは別々でしたが「ふるさと都路」を思い出しました。

ボランティアの訪問、サロン(茶話会)等々楽しいことばかり紹介をしておりますが、現実はどうでしょうか。望んでの避難生活ではない(声を大きくして言いたい)狭い部屋での生活、隣人の声が聞こえる仕切り、プライベートが無い等、問題は山積し、ここでの生活にやり場のない怒り、悲しみを知ってほしい。そして、この怒り。悲しみをどこにぶつけばよいのか。一方、このような状況を知らないで、避難生活で楽しく遊んで暮らしている「良いない」と一部の声であるが聞こえてくる。ふるさとを追われ離れ離れになり、日常生活を奪われ、狭い部屋で病んで生活していること、避難先の方々と仲良く生活をしていることを理解してほしい。ただ、避難中でも生活が成り立っているのは周りの人のサポートがあってこそなので、避難者意識を強調し他人に迷惑をかけるような言動・行動は慎んでほしいと思います。

都路で頑張っている人たちの一部を紹介したいと思います。いち早く都路を「なじょにかしなんね」と戻ったM旅館のYさん川内村、浪江・富岡。大熊町の人たちが通過する折見えるように垂れ幕にメッセージを入れ「がんばっぺ」と励ましている。E燃料店は戻っている都路の人たちのために自ら郡山までタンクローリーで燃料の運搬・補給、地域の人たちに大変喜ばれた。I魚店も自ら仕入れに行き生鮮食料品や日常の生活用品を販売、戻っている人たちのために大いに貢献している。その他、都路に戻って頑張っている人たちが大勢、私事になりますが仲間5組で月一回宴会所を輪番制にし、大いにしゃべり食って飲んで憂さ晴らしをしている。仲間の一人Yさんは「いなか暮らしの本」を執筆、都路の良さをアピールし都会から永住された人が沢山居た。今はブログを開設、都路の日々の出来事を発信しているので情報収集に大いに役立っている。

都路の和(輪)が壊れないよう早く除染をするよう願う、そして、除染が終わり、幼稚園、小中学校が再開し都路町民が「ふるさと都路」へ戻り、日常の生活が出来るよう「がんばっぺ」。

追伸、約50年音信不通であった岩井沢小学校で1・2年生の担任であったS先生から便りを頂き、サロンの執筆に選ばれたことに感謝しております。近々連絡を取り訪問して来たいと思います。

田村市都路町 生活支援相談員 今泉清司